

今回の特別講演・シンポジウム開催にあたって

澤田拓士（動物用抗菌剤研究会 理事長）

耐性菌の増加を抑制するために「抗菌剤の適正かつ慎重な使用」が叫ばれ、世界各国で様々な抗菌剤の使用に関する規制が導入されている。日欧米では永年に亘って議論を重ね、独自に、あるいは協調してこれと取り組んできた。しかしながら、その規制の日欧米間での違いや共通する部分について我々の理解は必ずしも十分ではないと思われる。そこで、今年度の特別講演では、特に家畜における抗菌剤の主要な部分を占める飼料添加剤および添加物に対する3極での規制をとりあげて比較するとともに、それによる影響の違いや今後の方向性を考えることとし、「日欧米における飼料添加剤・添加物規制の比較」と題して、日本イーライリリー株式会社の福本一夫先生にご講演をお願いした。

また、動物における抗菌剤の使用により耐性菌が選択され、増加することが動物の治療を困難にするとともに、耐性菌が食を介して、あるいは接触等により人に伝播して人の治療を困難にするというリスクが問題となっている。しかしながら、実際、耐性菌の出現や増加が抗菌剤の使用あるいは使用量や頻度とどれだけ関連しているかについては不明な点が多い。そこで、今回のシンポジウムIはこれらの疑問点を明らかにすることを目的

に企画された。まず、「わが国における抗菌性物質の使用量の推移」と題して畜産生物科学安全研究所の平山紀夫先生にご講演をお願いし、続いて「抗菌剤使用による家畜由来大腸菌の交差耐性および共耐性の農場レベルでの発現状況について」と題して農林水産省動物医薬品検査所の原田和記先生に、「動物に対するキノロン系抗菌剤の使用と耐性菌選択との関連」と題して独立行政法人動物衛生研究所の秋庭正人先生に、「埼玉県内で分離された豚離乳後下痢症由来大腸菌の薬剤感受性」と題して埼玉県中央家畜保健衛生所の荒井理恵先生にご講演をお願いした。

さらに、シンポジウムIIでは、「新規に開発された伴侶動物用抗菌剤の基礎と臨床」をテーマに、ファイザー株式会社の香川尚徳先生に「セフォキシメトナトリウム」について紹介して頂いた。

何れのご講演においても、興味深く豊富な内容を解りやすく話して頂き、我々の理解を深め、誤解を解消することができたと思う。演者の先生方に厚く御礼申し上げたい。一方では、今後の課題がそれぞれのテーマで浮き彫りにされたのではないかと思われる。本研究会がこれから取り組むべきことを考える上での貴重なご意見と考えたい。